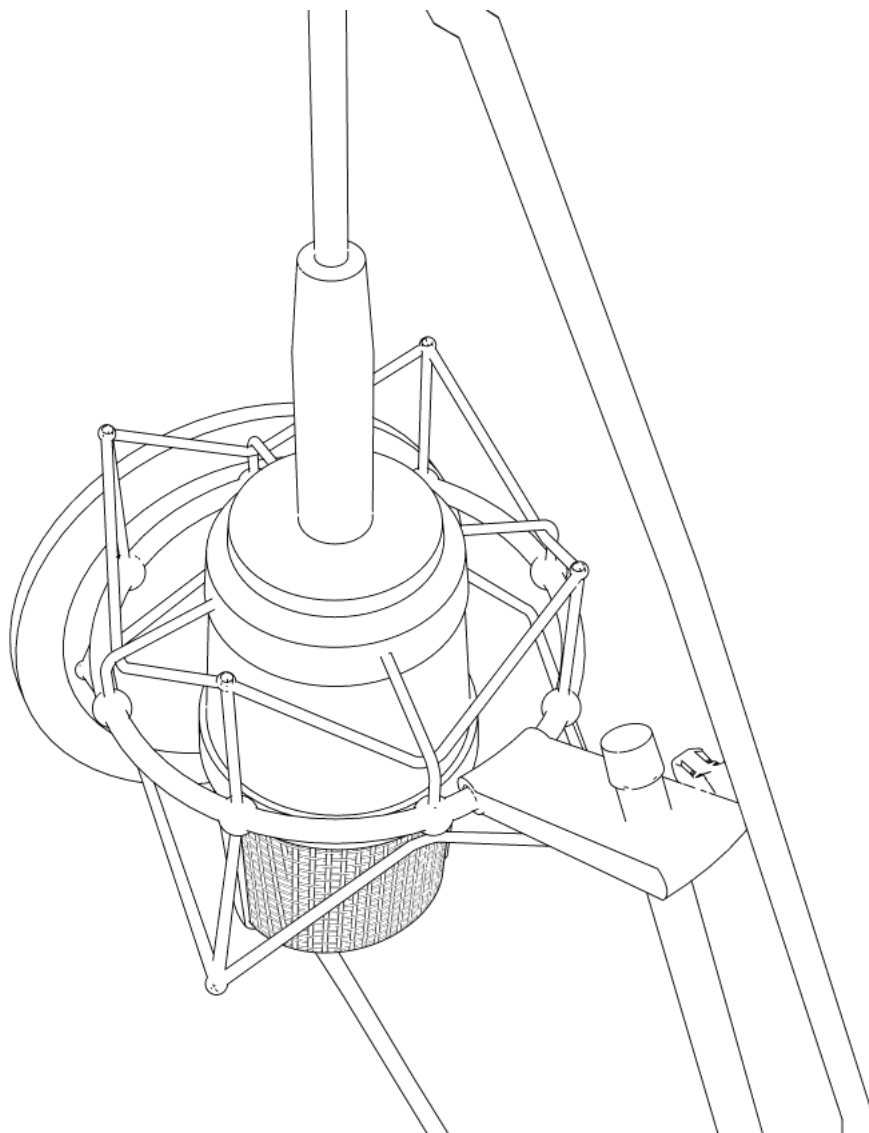


TCVV 白書

特設記事：角川に見る声優の『地産地消』

15

The TCVV Whitepaper 2012 NO. 15



声優は Visual に出るな！宣言 Ver1.11

声優は Visual に出るな会議 決議第 00000 号

声優は映画俳優・舞台俳優に比べ声だけで勝負をするという過酷な生業である。
映画・舞台俳優は身振り手振りが付加されるので視覚に訴えることが効く。
が、声優はそうは行かない。だからこそ高度な演技力が必要とされるのではないだろうか。
現在、第四次声優ブームと言われているそうだが、何か違和感を感じずにはいられない。
最近の「声優」と呼ばれる人々は Visual、その他のメディアに頼りすぎ・出過ぎではないだろうか？
今やマーケティングでメディアを十分に活用すれば、そこら辺のお姉ちゃんでさえも CD をあつという間に売ってしまう。この状況を「沈黙のミリオンセラー」¹とは良く言ったものである。
「声優」自体が今やメディア戦略によって商品になってしまったと思う。
この戦略は聴衆を気がつかない間に購買者に変えてしまう巧みなシステムだと考える。
しかし、このシステムは本来の価値。つまり「声のプロフェッショナル」としての声優を正当に評価していないものであると言える。

舞台俳優の中には決して Visual に耐えられる人ばかりではない。
が、そのような人が舞台に立てるのは、人を引き付ける演技力を持っているためであると考える。
一方、声優の質は低下している。これは最近のアニメーションは高度な演技力を必要としないものが多くなっているからといえよう。そうなれば声優の質が低下するのは至極当然のことである。²
従って、高度な演技を必要とする作品では声優の能力の限界が露呈してしまう。
例えば、劇場版新世紀エヴァンゲリオン最後の最後はアスカのほんの一言で終わる。³
しかし、この台詞は始めに用意してあったものとは違うものであったようだ。
本来は「あんたばか？」であったようだった。が、声優の力量不足のため、結局「気持ち悪い。」へと変更を余儀なくされた。
完全に声優が役に負けてしまっていたのである。
結果、作品は中途半端に仕上がってしまい損害を被ったのは我々聴衆者である。

声優が新境地を求めるのもいい。しかし、声優も役者であるのだからまず足場を固めてから進出するのが筋と考える。
我々は、健全な日本アニメ・マンガの質を守るため、ここに「声優は Visual に出るな！」を宣言する。

¹ 誰もが知っている訳でもないのに 100 万枚以上売ったレコード・CD のこと。一昔前は 100 万枚といったら大部分の人がその曲を知っていた。

² 劇場版 Evangelion のパンフレット（春、夏ともに）にて清川元夢氏はプロ意識なき声優への批判とも解釈できる発言をしている。これは非常に勇気ある発言と言える。（普通はこういう事は映画のパンフでは言わないであらう。）

³ 実は Evangelion はヲタク（庵野氏）によるヲタク批判であったことはあまり報じられていない。ヲタクの皆様はそのメッセージを受け取れなかったとのこと。（レイとシンジが列車に乗っていて会話をするあのシーンが批判部分とされている）

目次

巻頭言	5
1 第16回 TCVV 短期アニメ観測調査	6
1.1 TCVV 短観概要	6
1.2 調査期間	6
1.3 集計	6
1.4 傾向分析	8
1.5 際立つ状況	8
1.6 気になる動き	9
1.7 定点観測	9
2 TCVV 短観 落穂拾い	10
2.1 新人動向	10
2.2 Wikipedia 太文字役数ランキング 2012(でもソースは2ちゃん)	10
3 専門雑誌における掲載率 Vol.11	12
3.1 目的	12
3.2 解析方法	12
3.3 結果	12
3.4 データ考察	15
4 角川に見る声優の『地産地消』	16
4.1 グループ内で『地産地消』	16
4.2 キャストの不連続性	16
5 声優システム論 (10)	17
6 TCVV フォーラム	21
6.1 Chairman's free talk-議長放談	21
6.2 From member's voice	22
編集後記	23

設立 15 周年を迎えて

我々TCVV は作品と作品に真摯に取り組む声優を守りたいという思いで立ち上げてから本年度 15 周年を迎えた。しかし、その活動はどうだったろうか？

レベッカ・コスタ著『文明はなぜ崩壊するのか』によると、社会の問題が複雑化し過ぎると人間の脳は理解が追いつかなくなる「認知閾」という状態に達し、非合理的な思い込みや行動に走る傾向にあると述べている。

- ・反対はするが対策はない。
- ・個人に責任を転嫁して問題を解決したと酔いしれる。
- ・怪しげな因果関係に飛びつく。
- ・物事の原因が不明でも何か一つにこじつける。
- ・緩和策や応急処置に満足し根本問題を先送りする。
- ・問題を細分化してより複雑にしてしまう。

TCVV の活動をふりかえって考えてみると、こうなっていたのではないかな？

特に初期には何の分析もなしに『アイドルになりたい』『有名になりたい』という声優自身、あるいはおおよびろげ声優を敵視して来た。

声優を取りまく環境が構造図が複雑怪奇になってしまっていて認知閾に達していたと反省している。

今までの活動の内容を確認し見直せる個所は積極的に改善してゆきたいと思う。

さて、前号の巻頭言でも触れたがアイドル化声優は麻薬と同じだと書いた。が、実は売人の方が適切ではないかと思う。アイドル化声優という『おいしいネタ』を売り込んで徐々に作品を蝕んで行くのだ。そして売れなくなった・都合が悪くなったら即、ポイという感じで事務所という組織に切り捨てされてしまう。

アイドル化声優の代わりなんていくらでもいるのだ。最近の声優事務所は暴力団事務所と本質は変わらないのではないかな。そう言う意味からしても『**声優のアイドル化ダメ、絶対**』なのだ。

『最近の声優はアイドル並に可愛い』と評される。通常のアイドルでは今一つだけ声優として売れば十分お釣りが来るという考え方、所謂**声優バイアス**という馬鹿げた誘導のもと声優ファンはアイドル化を望んでしまっている。

それは声優をごく短期的な目でしか見ていない。容姿を前面に出してもせいぜい 3、4 年が良い線だろう。長い目で育てるという気風が全く感じられない。

アイドル化により声優ファンは演技以上のものを求め過ぎた。否、最早演技はどうでも良くなっているくらいさもある。その結果、原作からアニメ化した時への声優総取り替え、顔出しを断わった声優が事務所から干される事態が次々と発生した。しかし、どれもこれも声優に基本的な所に瑕疵は無い。そればかりか作品を望む者たちへの失望となって返された。

TCVV が今、一番に懸念しているのはアイドル崩れからの流入により容姿に自信が無い人間が声優を諦めてしまうことである。

我々はこれからも声の使い分けや演技力のある声優を支持し守ってゆく圧力団体として活動してゆく所存である。

1 第16回 TCVV 短期アニメタレ観測調査

TCVV 情報管理部 調査課 短観担当

1.1 TCVV 短観概要

経済指標を示す「日銀短観（日本銀行短期経済観測調査）」のようにある期間に区切りアニメタレントの出演数を調査することにより現状の動向を分析する。

なお、データは「しょぼいカレンダー⁴」から TCVV の算出基準⁵により機械的に抽出したものである。

集計方法は新規出演数を 1Q 毎に集計し合算した後、4 で除することで 1Q 当たりの新規出演数の平均値を算出する。この値を「短期的な活性度（単純活性度）」と定義する。

ただし、人間は忘却をする性質があるので『単純活性度』だけでは感覚に合致しないと考える。最近の出演した方がより印象が深い。そこで人間の感覚を取り入れるため過去を割り引いて考えた『感覚活性度』も同時に算出する。

具体的な算出方法は 4Q 前は出演数に 0.25 を、同様に 3Q 前は 0.5、2Q 前は 0.75 を乗ずることで重み付けし人間の感覚により近い活性度を算出する。

活性度が 1.00 以上ということはクォータ毎に平均して新規 1 本出ていることになりコンスタントに新規出演していると言える。言い換えれば『常に新しい状態』である。

順位に関しては感覚活性度を優先とし、感覚活性度が同値の場合は単純活性度で比較した。また調査結果については誌面を圧迫するため男女とも上位 20 名までの掲載とした。

(標本数 男性 59 名、女性 136 名)

1.2 調査期間

西暦 2012 年 1 月～2012 年 12 月

本調査は十分な調査をしています但内容を保証するものではありません。

1.3 集計

1.3.1 女性編

順位	氏名	2012/1Q	2012/2Q	2012/3Q	2012/4Q	単純活性度	感覚活性度
1	沢城みゆき	5	5	4	6	5.00	3.19
2	花澤香奈	6	2	4	7	4.75	3.13
3	堀江由衣	5	4	3	7	4.75	3.13
4	日笠陽子	5	2	7	2	4.00	2.38

⁴<http://cal.syoboi.jp/>

⁵無料放送の TVA レギュラ出演のみで単発出演は除く

順位	氏名	2012/1Q	2012/2Q	2012/3Q	2012/4Q	単純活性度	感覚活性度
5	釘宮理恵	3	6	1	5	3.75	2.38
6	大原さやか	2	4	5	3	3.50	2.31
7	能登麻美子	4	3	6	2	3.75	2.25
8	伊藤静	5	4	2	4	3.75	2.19
9	三森すずこ	4	3	3	4	3.50	2.19
10	茅野愛衣	4	3	2	4	3.25	2.00
11	阿澄佳奈	3	3	1	5	3.00	2.00
12	福圓美里	1	3	3	4	2.75	2.00
13	川澄綾子	1	4	2	4	2.75	1.94
14	高森奈津美	4	4	3	2	3.25	1.81
15	生天目仁美	1	4	4	2	2.75	1.81
16	戸松遥	2	4	2	3	2.75	1.75
17	田中理恵	2	1	2	4	2.25	1.63
18	喜多村英里	4	2	3	2	2.75	1.56
19	豊崎愛生	1	5	2	2	2.50	1.56
19	白石涼子	3	2	2	3	2.50	1.56

1.3.2 男性編

順位	氏名	2012/1Q	2012/2Q	2012/3Q	2012/4Q	単純活性度	感覚活性度
1	杉田智和	2	5	3	7	4.25	3.06
2	福山潤	3	4	5	5	4.25	2.88
2	櫻井孝宏	3	4	5	5	4.25	2.88
4	中村悠一	5	2	4	5	4.00	2.56
5	諏訪部順一	5	4	2	5	4.00	2.44
5	浪川大輔	5	5	0	6	4.00	2.44
7	梶裕貴	4	3	1	6	3.50	2.31
8	子安武人	3	2	3	5	3.25	2.25
9	岡本信彦	1	4	2	5	3.00	2.19
10	小野大輔	4	5	4	2	3.75	2.13
11	石田彰	3	5	1	3	3.00	1.75
12	吉野裕行	1	5	3	2	2.75	1.75
13	森川智之	2	5	1	3	2.75	1.69
14	宮野真守	1	4	2	3	2.50	1.69
15	小山力也	3	3	3	2	2.75	1.63
16	神谷浩史	3	5	0	3	2.75	1.56
17	鈴木健一	2	4	1	3	2.50	1.56
17	寺島拓篤	2	3	3	2	2.50	1.25
19	内山昂輝	1	2	2	3	2.00	1.44
20	安元洋貴	3	2	2	2	2.50	1.31
20	三木眞一郎	3	2	2	2	2.50	1.31

1.4 傾向分析

今回調査は年間調査に当たるため 2012 年の傾向が掴める。
女性では前回調査同様に沢城、花澤の高位安定で変わらず。
今回は沢城が 1 位となったが花澤とは僅差。ここ数年はこの傾向が続いている。
前回、3 位だった能登麻美子は昨年と個人的な傾向は変わっていないが若干後退している。
特筆すべきは常に 10 位前後だった堀江が 3 位へと急上昇している点。
また、新人という点では三森の急上昇にも注目すべき点である。
今年は新人が数多く出演して来たが、まだまだ上位には届いていない。しかし、翌年に大きく伸びることがあるので注視してゆく必要がある。
一方、男性では全く安定せず傾向が掴みにくい。
そのため男性は入れ換え・追加を行わず比較してみた。
各人の出演数が伸びているため前回調査より全体的な傾向としてレベルが上っている。
個人別に見ると前回 1 位の岡本が急激に下降して代わりに杉田が 1 位に急浮上している。
前は健闘していたベテラン勢は軒並み下落しており若手の勢いが増していると見ている。そんな中でも石田彰は堅実な位置を保っているのが印象的である。

1.5 際立つ状況

1.5.1 沢城みゆき

相変わらず高位安定。一年前の前回調査より順位を 1 つ上げて 1 位。
メイン、サブ問わず幅広く出演している所為かどんな作品を見ても沢城の声が聞えて来ると
いう感じになっている。

1.5.2 三森すずこ

去年から事務所である響の強力なプッシュの所為もあって大方の予想通りに急激に上昇。
ただし、こういった場合には過去の傾向から急反転する傾向にある。

1.5.3 杉田智和

前回調査では 15 位だったのが 2 位に大差を付けて断トツの 1 位。
男性声優は上位でも浮沈が激しいので次回調査時の予想が大変難しい。

1.5.4 中村悠一

前回調査で 2 位だったが今回 4 位と下降したが高位置についでいる。
前回よりも出演数が上っているが上位者の数字が遥かに高い数値を示しているた 4 位となっ
てしまっている。本調査よりが高位安定の傾向にある。

1.6 気になる動き

1. 伊藤静

前回調査では 30 位だったのが一気に 8 位上昇となっている。

2. 福圓美里

ここに来て急激に伸びて来た。演劇に対する取り組みがようやく結実した遅咲きタイプと推察している。

3. 高森奈津美

比較的新人の部類であるが大幅上昇して来ている。今回のみの偶発的な事態なのか要経過観察である。

4. 竹達彩奈

シングル CD、グラビアなど話題は多いものの順位は伸び悩み気味。典型的な話題先行型となりつつある。

1.7 定点観測

1. 能登麻美子

傾向は殆ど変化が無いが上位入れ換えの影響を受けて順位が若干の低下したものの安定感は十分。

2. 堀江由衣

常に 10 位前後と高安定であったが、回調査にて一気に 5 位まで上昇して来た。

今年はメインキャストおよびサブキャストともに出演数があったのでこの順位まで来たと考える。

3. 田村ゆかり

前回調査より大幅に順位が下落。出演数は少ないがネームヴァリューのため存在感が大きい。

4. 平野綾

一時は飛ぶ鳥を落とす勢いがあったが騒動以来、下位安定傾向が続いている。

注目新人群よりも下位に位置している。来年より本格的に歌手活動も再開するようなので要経過観察。

5. スフィア（高垣彩陽、豊崎愛生、戸松遥、寿美菜子）

4 人の中では戸松が豊崎が 20 位圏内だが、寿および高垣は軒並 20 位以下となっておりメディア露出の割に伸びが無い。

全体的に見ても前回調査より下降しており、これがエアポケット的なのか人気下降の前兆なのか慎重に見極める必要がある。

6. StylipS（小倉唯、石原夏織、能登有沙、松永真穂）

今次調査より定点観測ポイントに追加。

石原は今年、頭角を表わして来ており知名度の高い小倉より高位に付いている。

残り二人、能登、松永については事務所押しがあるものの今一つという傾向である。

7. 野水伊織

プロダクション・エースの主砲とも言える存在。角川作品には殆ど出演するが逆にそれ以外では出演が非常に少ない。

来年以降もこの傾向は変わらないと思われる。

8. 石田彰

常に 10 位前後と安定しておりマーカとして定点ポイントに追加。

2 TCVV 短観 落穂拾い

本記事では埋没してしまっている情報について興味深い件について補足する。

2.1 新人動向

順位	氏名	2012/1Q	2012/2Q	2012/3Q	2012/4Q	単純活性度	感覚活性度
53	瀬戸麻沙美	2	0	2	2	1.50	1.00
53	内田 真礼	1	1	3	1	1.50	1.00
53	大久保瑠美	0	3	2	1	1.50	1.00
59	赤崎 千夏	5	0	2	1	2.00	0.94
64	小松未可子	2	2	1	1	1.50	0.81
64	五十嵐裕美	2	1	3	0	1.50	0.81
83	上坂すみれ	1	0	0	2	0.75	0.56
87	佐倉 綾音	0	1	2	0	0.75	0.50
94	東山 奈央	1	1	1	0	0.75	0.38
105	三澤 紗千香	0	1	1	0	0.50	0.31

今年、話題の一人になっていた内田真礼であるが新人集団の団子状態の中にいる。

同じく話題である上坂すみれについては、内田より下位に位置している。何れも話題が先行しているように見える。

しかし、新人は翌年から序々に上位に食い込んで来るため来年この集団の中から誰が突出するのか注視してゆく必要がある。

また、積極的に歌手活動をしている小松未可子について今後どの方向性で売って行くのかとスタチャ依存度が高い点が気になる。

2.2 Wikipedia 太文字役数ランキング 2012(でもソースは2ちゃん)

順位	氏名	順位	氏名	順位	氏名	順位	氏名
1	花澤 香菜	6	喜多村英里	11	三森すずこ	15	豊崎 愛生
2	沢城みゆき	6	井口 裕香	12	遠藤 綾	17	石原 夏織
3	堀江 由衣	8	日笠 陽子	13	佐藤 利奈	18	井上 麻里奈
4	釘宮 理恵	9	小林 ゆう	13	阿澄 佳奈	19	加藤 英美里
5	茅野 愛衣	10	伊藤 静	15	悠木 碧	20	大原 さやか

2ちゃんねるに Wikipedia 掲載声優で 2012 年作品においてメインキャストに当る数をランキングした集計があった。

ソースが2ちゃんなので十分再検証する必要があるものの大変興味深いので TCVV 短観との比較しつつこれから読みとれるものについて述べたい。

(TCVV 短観の妥当性を検証するという意図はない)

上位 3 名は若干の順位入れ換えはあるものの奇しくも TCVV 短観とほぼ同じである。
本編でも触れたが堀江由衣の順位が急上昇している。Wikipedia ランキングでも堀江由衣は 3 位となっており 2012 年は例年に比べて主役級が多かったと言える。

TCVV 短観では上位にいた能登麻美子・大原さやかではあるが太文字役数ランキングでは大幅にランクを落している。

短観で高位安定で上位に存在するという点を考慮するとヒロイン声になりにくいサブキャラなどに頻出しており地に足が付いた活動をしていることを示しているのではないかと考える。

雑誌の紙面を賑わすスフィアメンバー、田村ゆかり、水樹奈々。太文字ランキングでも短観でも低く話題先行性であること読み取れる。

3 専門雑誌における掲載率 Vol.11

TCVV 情報管理部 調査課 掲載率担当

3.1 目的

本寄稿は TCVV 宣言にある『「声優」と呼ばれる人々は VISUAL、その他のメディアに頼りすぎ・出過ぎではないだろうか?』という、TCVV 本来の目的に戻り TCVV 情報管理部調査課が独自（独断と偏見 ???）に解析した結果である。

では実際にどのくらいのメディア出現率なのだろうか？

本調査では主にメジャー声優雑誌「声優グランプリ（（株）主婦の友社発行）」を元にグラビアの面積にて評価する。

3.2 解析方法

以下の条件にてページに対するグラビア率を算出し、個人毎&事務所毎にビジュアルに出ている率を算出している。

個人出現率：純カラーグラビアページ率のなかで、個人ごとに相当する占有率。複数人で掲載されている場合には単純に人数で除算する。

$$Cp3 = \frac{\text{個人でのグラビアページ数}}{\text{グラビアのみの総ページ数}} \times 100$$

事務所別出現率：純カラーグラビアページ率の中で、所属事務所別の占有率。複数事務所で掲載されている場合には事務所数で除算する。

$$Cpj = \text{事務所別出現率} = \frac{\text{所属事務所別グラビアのみのページ数}}{\text{グラビアのみの総ページ数}} \times 100$$

3.3 結果

2012 年、1 年間の各号の上位 5 名をピックアップした表を以下に示す。

	1 月号 (36.15p)	2 月号 (33.5p)	3 月号 (35.35p)	4 月号 (35.30p)	5 月号 (38.13p)	6 月号 (33.71p)
1	田村ゆかり 25.64%	茅野愛衣 16.42%	茅原実里 17.78%	悠木碧 22.67%	竹達彩奈 28.85%	梶裕貴 24.77%
2	大亀あすか 14.43%	豊崎愛生 16.42%	佐倉綾音 12.73%	寿美菜子 15.78%	明坂聡美 13.11%	佐藤聡美 14.83%
3	豊崎愛生 13.24%	水樹奈々 16.42%	悠木碧 9.73%	上坂すみれ 8.50%	梶裕貴 13.11%	豊崎愛生 8.58%
4	小倉唯 10.44%	悠木碧 16.42%	梶裕貴 8.9%	竹達彩奈 6.56%	水樹奈々 10.49%	上坂すみれ 5.93%
5	竹達彩奈 6.92%	堀江由衣 14.93%	戸松遥 8.71%	茅原実里 5.67%	宮野真守 10.49%	平野綾 5.93%

表 1: 2012 年各月の個人出現率上位 5 名 (上期)

	7月号 (37.01p)	8月号 (41.29p)	9月号 (37.98p)	10月号 (41.65p)	11月号 (43.08p)	12月号 (53.66p)
1	水樹奈々 27.02%	津田健次郎 12.11%	田村ゆかり 12.27%	堀江由衣 18.80%	田村ゆかり 23.21%	水樹奈々 19.58%
2	東山奈央 12.16%	戸松遼 12.11%	伊藤かな恵 10.53%	梶裕貴 14.41%	茅原実里 10.44%	戸松遼 8.85%
3	田村ゆかり 8.9%	小倉唯 10.50%	宮野真守 7.90%	竹達彩奈 12%	小野大輔 9.28%	寿美菜子 8.22%
4	下田麻美 8.1%	水樹奈々 8.21%	豊崎愛生 7.6%	寿美菜子 10.6%	寿美菜子 9.28%	茅原実里 7.45%
5	寺島拓馬 8.1%	内田真礼 7.27%	鈴村健一 5.27%	内田真礼 9.6%	石原夏織 5.01%	宮野真守 7.45%

表 2: 2012 年各月の個人出現率上位 5 名 (下期)

	2008 年 (384.24p)	2009 年 (412.55p)	2010 年 (383.28p)	2011 年 (423.8p)	2012 年 (467.01p)
1	平野綾 6.32%	平野綾 7.97%	水樹奈々 8.65%	豊崎愛生 6.59%	水樹奈々 7.67%
2	茅原実里 5.72%	水樹奈々 7.27%	田村ゆかり 7.07%	寿美菜子 6.51%	寿美菜子 6.16%
3	宮野真守 5.39%	神谷浩史 6.04%	茅原実里 5.66%	高垣彩陽 6.16%	梶裕貴 6.10%
4	水樹奈々 5.33%	田村ゆかり 4.46%	平野綾 5.08%	竹達彩奈 5.24%	田村ゆかり 5.83%
5	新谷良子 5.19%	鈴村健一 4.41%	戸松遼 4.97%	水樹奈々 5.06%	豊崎愛生 5.45%
6	小林ゆう 4.58%	堀江由衣 4.21%	寿美菜子 3.64%	戸松遼 4.73%	竹達彩奈 4.67%
7	堀江由衣 4.15%	戸松遼 4.06%	福山潤 3.58%	茅原実里 4.62%	茅原実里 4.59%
8	田村ゆかり 3.38%	宮野真守 3.90%	豊崎愛生 3.47%	田村ゆかり 3.59%	戸松遼 4.56%
9	野中藍 3.14%	小野大輔 3.77%	堀江由衣 3.32%	伊藤かな恵 3.48%	悠木碧 3.73%
10	小野大輔 3.00%	茅原実里 3.37%	悠木碧 2.64%	堀江由衣 3.46%	高垣彩陽 3.63%
11	吉野裕行 2.86%	福山潤 2.04%	高垣彩陽 2.18%	今井麻美 2.4%	小倉唯 3.39%
12	神谷浩史 2.66%	吉野裕行 1.82%	伊藤かな恵 2.14%	梶裕貴 2.24%	堀江由衣 2.96%
13	白石涼子 2.61%	平川大輔 1.29%	竹達彩奈 2.05%	花澤香菜 2.16%	宮野真守 2.36%
14	高橋直純 2.46%	小林ゆう 1.29%	日笠陽子 1.94%	悠木碧 1.92%	石原夏織 2.35%
15	杉田智和 2.32%	寺島拓篤 1.29%	神谷浩史 1.59%	大亀あすか 1.83%	伊藤かな恵 2.17%
16	谷山紀章 1.76%	能登麻美子 1.27%	入野自由 1.52%	井上麻里奈 1.77%	寺島拓馬 1.88%
17	鈴村健一 1.68%	岸尾だいすけ 1.26%	酒井香奈子 1.39%	下野紘 1.59%	神谷浩史 1.83%
18	名塚佳織 1.67%	岡本信彦 1.22%	鈴村健一 1.37%	喜多村英梨 1.43%	内田真礼 1.79%
19	平川大輔 1.63%	伊藤静 1.20%	岸尾大輔 1.31%	浪川大輔 1.42%	小野大輔 1.28%
20	津田健次郎 1.52%	鳥海浩輔 1.24%	花澤香菜 1.31%	細谷佳正 1.34%	上坂すみれ 1.23%

表 3: 2008-12 年年間個人出現率上位 20 名

	2008 年 (384.24p)	2009 年 (412.55p)
1	青二プロダクション 9.83%	シグマ・セブン 10.93%
2	シグマセブン 9.65%	アーツビジョン 10.58%
3	アイムエンタープライズ 7.06%	青二プロダクション 9.98%
4	スペースクラフト・エンタテインメント 6.31%	スペースクラフト・エンタテインメント 7.96%
5	エイベックス・プランニング&デベロップメント 5.72%	ミュージックレイン 6.76%
6	劇団ひまわり 5.46%	アイムエンタープライズ 5.69%
7	ビーボ 5.19%	VIMS 4.79%
8	ホーリービーク 4.58%	マウスプロモーション 9.83%
9	VIMS 4.15%	エイベックス・プランニング&デベロップメント 4.10%
10	マウスプロモーション 3.34%	劇団ひまわり 3.9%
11	アトミックモンキー 3.11%	賢プロダクション 3.61%
12	アーツビジョン 2.93%	ぶろだくしょんバオバブ 2.94%
13	俳協 2.88%	俳協 2.72%
14	フリー 2.82%	大沢事務所 2.66%
15	賢プロダクション 2.66%	メディアフォース 1.82%
16	81 プロデュース 2.47%	フリー 1.73%
17	ダウンゴアーティストプロダクション 2.20%	カレイドスコープ 1.44%
18	ラムズ 1.98%	不明 1.4%
19	ぶろだくしょんバオバブ 1.82%	プロ・フィット 1.37%
20	大沢事務所 1.80%	ホーリービーク 1.29%

表 4: 2008-2009 年 年間事務所別出現率上位 20 社

	2010 年	(383.28p)	2011 年	(423.8p)
1	ミュージックレイン	14.05%	ミュージックレイン	23.0%
2	アイムエンタープライズ	12.95%	アイムエンタープライズ	11.07%
3	シグマ・セブン	10.29%	シグマ・セブン	9.16%
4	青二プロダクション	6.35%	アーツビジョン	6.03%
5	アーツビジョン	6.27%	青二プロダクション	5.73%
6	ぶろだくしょんバオバブ	6.03%	81 プロデュース	4.81%
7	エイベックス・プランニング&デベロップメント	5.681%	VIMS	4.63%
8	スペースクラフト・エンタテインメント	5.105%	EARLY WING	3.83%
9	VIMS	4.33%	大沢事務所	3.12%
10	プロ・フィット	3.50%	プロ・フィット	3.08%
11	81 プロデュース	3.35%	アクセルワン	2.98%
12	賢プロダクション	2.55%	APD/リンクアーツ	2.62%
13	俳協	2.43%	マウスプロモーション	2.36%
14	大沢事務所	2.34%	アクロス・エンタテインメント	2.13%
15	フリー	1.66%	エイベックス・プランニング&デベロップメント	2%
16	ジャンクション	1.53%	ぶろだくしょんバオバブ	1.9%
17	尾木プロ	1.4%	フリー	1.65%
18	アトミックモンキー	1.14%	賢プロダクション	1.25%
19	スーパーエキセントリックシアター	0.98%	ホーリーピーク	1.06%
20	不明	0.92%	尾木プロ	1%

表 5: 2010-11 年年間事務所別出現率上位 20 社

	2012 年	(467.01p)
1	ミュージックレイン	19.80%
2	アーツビジョン	11.14%
3	アイムエンタープライズ	10.89%
4	シグマ・セブン	9.52%
5	スタイルキューブ	7.85%
6	青二プロダクション	6.33%
7	プロ・フィット	5.0%
8	APD/リンクアーツ	4.59%
9	VIMS	3.82%
10	81 プロデュース	3.35%
11	劇団ひまわり	2.43%
12	アクセルワン	2.37%
13	アミュレート	2.14%
14	マウスプロモーション	1.4%
15	スペースクラフト・エンタテインメント	1.3%
16	アセンブルハート	1.28%
17	響	0.83%
18	Grick	0.74%
19	ホリプロ	0.71%
20	賢プロダクション	0.64%

表 6: 2012 年年間事務所別出現率上位 20 社

3.4 データ考察

水樹奈々、田村ゆかりの2人は各月別結果を見てももはや鉄板であろう
そこに加えこの数年で認知度の上がってきた竹達彩奈や悠木碧といった若手によるグラビア率が非常に多くなってきた様に感じる。

特に、小倉唯、石原夏織は所属事務所スタイルキューブのユニット StylipS によるところも大きい。StylipS はミュージックレインによるユニット Sphere を意識して組閣されたものと推測されているが、その割には残りの2人（能登有沙、松永真穂）は非常に空気抜いの様に感じる。少し前に解散した LISP ほどでは無いが Sphere ほどの売り込み感が感じられない。

その Sphere であるが掲載されているグラビアを個人別で見ると大した事が無い様に見受けられる。しかし、ユニットとしての掲載率は非常に大きいものであり、2012 年を通して見ると Sphere としてグラビア（連載を除く）掲載が無かった月は2月号のみで、残りの11カ月は全て冒頭にグラビアが掲載されている形となった。

その事は事務所別に見た年間の掲載率をみると非常に明らかであり、Sphere の4人が所属するミュージックレインが3年連続で1位となっている。ミュージックレイン所属の声優自体が Sphere のみと言っても過言では無いので、Sphere の掲載率の高さが伺える結果となっている。

良く指摘される事ではあるが現在「声優グランプリ」という1誌のみで調査を行っている事もあり、非常に偏った調査結果になっている事は重々承知している。

本来ならば「声優アニメディア」等他誌との比較も行わなければならない事は今後の検討事項としていきたい。

参考文献

（株）主婦の友社発行 月刊声優グランプリ 2008 年 1 月号～2012 年 12 月号

4 角川に見る声優の『地産地消』

TCVV 議長

4.1 グループ内で『地産地消』

角川グループの声優事務所であるプロダクション・エース。所属声優の出演作品は殆どが角川作品のみ。その『地産地消』ぶりには目を見張るものがある。

プロダクション・エースは事務所が新しいだけあって新人声優が多い。そして彼等は角川作品主体で出演している訳だが、その作品自体が非常に薄い感じがしてならない。いわゆる『空気アニメ』だ。新人声優のために無理矢理に作品を当てている感じがする。そのため作品自体の話題に乏しければキャスト自体も話題に乏しい。

尤も TCVV としてはキャストが作品よりも話題になってしまうのはおかしいと思っているのだが。一方、今年後半に話題となった『中二病でも恋がしたい!』は新人声優出演が多い作品であっても薄い感じは全くしない。これは京アニ作品だからという点も多分にあると思うのだが『日常』については京アニだったが DVD/BD の売り上げは散々だった。

昨今は『けいおん!』などに見られるように作品により声優が作られていることもある。

だが、角川サイドがプロダクション・エースの声優にこだわり過ぎてしまった結果、京アニ効果が出せず失速したと見ている。

こうして見ると角川は地産地消戦略で商売を展開しているが上手く行っているとは言い難い。しかも、我々にとって悪影響だから始末に終えない。

角川の事例ではないが『この中に一人、妹がいる!』。ゆいかおりを主軸として StylipS が OP を唄うなど自社タレント推しで鼻についた感じがした。事務所が背後で糸を引くとロクな事がない。

4.2 キャストの不連続性

角川の地産地消に関しては『キャストの不連続性』の観点からも問題視している。

『キャストの不連続性』。典型的な例はろろゲ原作においてアニメ化で全くキャストが入れ変わってしまうことであり、『処女はお姉さまに恋してるキャスト変更騒動』が記憶に新しい。

声付きの原作の場合、声は世界観と一体である。従ってキャストと役柄は不可分である。それをアニメ化の際に人気声優に変更してしまうのは作品を壊すことに直結する。

この『キャストの不連続性』がろろゲ以外にもアニメにおいても時折発生する。

殊に多いのは1期と2期でキャストが変更になるという不連続性の発生である。これも由々しきことである。

生徒会の一存(富士見ファンタジア文庫:角川系ですね)では1期から2期への時点でキャストに一部変更が発生した。1期では紅葉知弦役は斉藤佑圭(青二)だったが2期では美名(プロダクション・エース)へ変更された。これにより2期では主要キャストがプロダクション・エースとなったのだ。このように地産地消であるとキャストの不連続性が発生しやすい。完全に製作サイドの都合であって見ている側を無視したと言われても仕方が無い。

よほどの理由が無い限り、キャストの連続性は最大限、尊重されるべきと考える。

5 声優システム論 (10)

声優の付加価値-先鋭化について考える-

TCVV 議長

声優システム論とは

現代声優はアニメや洋画に声を当てるだけの存在ではなく社会や経済にも影響を与える存在になり、その動きは一昔前の古典的な声優観では説明出来無い。

そこで現代声優の振舞いを複雑系として捉えることを考え、この系を『声優システム』と名付けた。⁶

本論は『声優システム』を様々な角度から考察するものである。

今回は声優ユニット考 (2) としたかったが 1 回間が空いてしまったので別のテーマとしてお送りしたい。

1. まくら

AKB48 が主演したアニメ AKB0048。

AKB48 の中でも声優志望の人達が主演していたらしいが一体何がやりたかったのか分らんかった。人気声優と人気アイドルグループのコラボとして製作し、ついでにメンバの声優としての実績作りとでも製作サイドは思ったのだろう。しかし、本物の声優と共演なので、その力量がハッキリしてしまったのは皮肉だ。BD/DVD の売り上げはイベント特典が付いた 1 巻を除いて大爆死状態。なのに 2 期とか正気の沙汰ではない。

『AKB48』とつけば何でも売れるとでも思っているのか。

そんなに声優の仕事がしたければプロダクション・エースにでも入って角川作品に出演していればいい。

そー言えば、財務省も復興国債が売れないので AKB を CM に起用しはじめた。国さえも正気の沙汰ではない。尤も、債券だけではなく握手券も付けないと売れないと思うが...

三次元が無理矢理二次元に進出して大惨事。もう、シャレになっていない。

この背後にキングレコードの影がチラチラ見えて仕方がない。AKB48 の CD 発売元はキングレコードであるし、AKB0048 もスタチャなのでキングレコードである。AKB 効果で売り上げが倍増どころの騒ぎじゃないキングレコードは笑いが止まらないだろう。さらに、別のアイドルユニットの『ももクロ』もキングレコードだし、今、話題のアイドルユニットは全てキングが握っているようなもの。今のうちにヲタに金を使わせて逃げきる構えを見せている。

その結果、大量に廃棄される CD。原料であるポリカーボネートの無駄だ。

⁶システムたる典型的な例は声優のためにアニメが作られるようになったこと。主従で言えば、従だった声優が主になったという点から見ても『システム』要件を満たしている。

2. 尖鋭化の変化

声優は何よりも演技力である。

しかし、市場の多様化により演技力が差別化要因になりにくくなっているのも事実である。

アニメ/声優市場などサブカル市場が激化し『レッドオーシャン化⁷』していると思う。

そんな中、事務所サイドや声優個人は、あの手この手で何とか『ブルーオーシャン』な市場開拓を進めている。

そのためここ数十年で差別化の在り方が変わって来たと思う。より言葉を選んで言えば尖鋭化 (尖り方、尖らせ方) が変わって来たと思う。

演技力が差別化要因になりにくくなっているので何かしら『別の尖ったもの』が無いと売れない。従来の尖鋭化は『演技が凄い、声色が多数出る、特徴的な声』という声優における基本的なものが前面というか全部だったのに対して、昨今では『何かが秀でている』が大変重要になって来ていると言える。

有り体に言えば見た目が可愛い、特技が凄いなどだ。

昨今の例示をすれば前者はグラビアなどで露出が多い小倉唯、後者は旧ソ連、ロシアが大好きが上坂すみれ等である。

3. 先鋭化を支える『声優バイアス』という戦術

第6回でも述べたがアイドル化声優は軸足がアニメ等の声を主体とした活動であることで万人受けしなくて良い『限定されたアイドル』である。純粋アイドルに絶対的に必要な容姿や性格といった素養が『控除』されるのだ。これが所謂、『声優バイアス』である。

『声優バイアス』こそが現代声優の先鋭化の基本と言ってほぼ間違いない。

そして声優バイアスの礎を築いたのは他ならぬ秋元康だと思う。

今や秋元はAKB48の仕掛け人として有名であるが今を去ること二十数年前、『おニャン子クラブ』を仕掛けた。彼はこれまで絶対的な魅力が必要だったアイドル路線とは違い、どこにでもいる普通の女の子をアイドル化させる、いわゆる『身近なアイドル路線』というものを作った。

これ以後、アイドルの敷居は極端に下ったと考えられる。そして数年後、声優界にも身近なアイドル路線を継承してアイドル化声優の誕生となった。

そう言う意味でもAKB0048というアニメは我々にとって皮肉でしかない。我々は身近なアイドル路線により発生したアイドル化声優の弊害という第1の侵略を受け、今まさに我々はAKB48という本艦により第2の侵略を受けている。この事を自覚し秋元は我々の領土をもを侵し始めた脅威と認識しなければならない。

4. 付加価値声優という考え方

何か一つでも突出した事があれば、それは『声優バイアス』の力で大きなウリとなる。

こう言った従来声優の特徴の他に新たな特徴を付加した声優について付加価値声優 (Value Added Voice Actor:以下、VAVA)⁸という考え方を提唱したい。

いささか前向きで革新的な言葉だけど実際には揶揄的表現である。通常の声優はVAVAとは呼ばれない。逆にアイドル的要素を前面に出したアイドル崩れからの流入した者はVAVAである。

⁷競争の激しい既存市場のこと。対義語はブルーオーシャン。

⁸付加価値通信網 (Value Added Network) のバクリです。歳がバレてしまう。

5. とは言ってもユニット先行ではねえ。

いくら声優バイアスがあると言っても、声優的な活動をしていないのにユニットが先行しているものとか見ていると正直、腹立たしい。まあ、StylipS のことですけど。

StylipS は萌えない声優と萌える声優を一緒にして萌やそうとしている。『声優版プルサーマル計画か』とツッコミをしたくなる。

本物のプルサーマルでは燃えて尽きて全部灰になってしまうが。(そうになったらそれで面白いけど...)

これで最もイヤなのはゴリ押しで OP/ED とか歌って来る点。ホントやめてくれといいたい。知名度の低い状態でのユニット結成は VAVA 的に駄目だ。成功した試しがない。

声優としての軸足すら整っていないので VAVA の考え方からしてもアウトだと思う。

スフィアと StylipS は双方とも事務所主導のユニットだが大きな違いはスフィアは結成当時、既に各人がある程度名前が知れていたという違いがある。つまり発射台の高さが違ったのだ。SONY パワーを背景として個々人の出演数を増やすという TCVV 的にはアレだけど、やり方としては非常に巧いと思う。一作品に全員出すことをあまりせず反発を上手くかわしている。

StylipS は後からジワジワ来るのかも知れないがメンバーやタイアップのゴリ押し感が非常に強く、LISP や (ラムズの) クローバのようにいつか来た道を辿りそうな気がしてならない。LISP が活動を終えてから 1 年余り、阿澄佳奈以外は全く話題にも上って来ない。

6. 声優は恋愛禁止すべき？

声優ファンの中には『アイドル声優として売っているのなら恋愛禁止にすべき』という意見もある。TCVV はアイドル化声優は認めていないが、なるほど、これは一理あると思った。

VAVA 的な考えから立てば事務所側はアイドル化戦略で売りだしている以上、その考えは是としなければおかしい。

都合が悪くなったら『声優側』に逃げるのは一貫性に欠けるし不誠実だ。

だが、本来声優であれば結婚にせよ恋愛にせよ、外野側としては知ったことではない。役者に足枷をかけるなんてトンでもない話である。アイドル化の弊害の一つであり大問題と認識している。

7. 経時変化しやすい先鋭化

現代声優の先鋭化は時間と共に簡単に変化しやすく丸くなって尖鋭性が無くなってしまい易い傾向にある。端的に言えば他に可愛い人が出て来たり、さらに凄い方向の特技を持った人が出たりすると個人的評価が急激に下ってしまうのだ。

たとえ、AKB メンバが卒業して声優デビューしても元 AKB という看板だけは尖り方が非常に弱い。消えるのは早いと思われる。

8. 二層構造

ここ数年の TCVV 短観を見て興味深いことが分かる。上位に入っている人は殆どアイドル化されていない。寧ろ、アイドル化の方が下位にいるくらいだ。

アイドル化声優は専門雑誌で業界全体をきらびやかに彩る存在ではあるが、それだけである。

もしかしたら事務所の日銭稼ぎぐらいにしか役に立っていないのではないかな？

現在の声優界の構造はキラキラ担当のアイドル化声優と本流の声優の二層構造ではないかと考え

る。全体的には強い淘汰圧がかかり、残るのは基本性能が優れた者だけという仕組みが機能しアイドル化声優は長続きしないように見える。しかし、一人のアイドル化声優が消えても他の者によって変わるだけで外野から見れば業界としては依然としてキラキラしつづける。

それだけ、構造的に成熟してしまっているとも言える。最早、それは仕方が無いことと現状を是認するしか無い。非常に悔しいことであるが...

だが、彼等キラキラしたアイドル化声優のために作品が喰い散らかされることもある。

作品が壊されないようにするためには明らさまなアイドル化に対して声高に叫び拒否することしか手はないのかも知れない。

万国のアニメファンよ、団結せよ！

9. 今回のまとめ。

- 付加価値声優を支えるのは『声優バイアス』。
- アイドル化はブルーオーシャンではない。
- 現状を是認しつつも明らさまなアイドル化に対しては断固拒否。
- これ以上、秋元の侵略を許してはならない。

6 TCVV フォーラム

TCVV 会員や読者の声を放談という形でお届けします。

TCVV 事務局

本誌に関する御意見、御感想をお待ちしています。
info@tcvv.org もしくは公式ページの意見箱までお寄せ下さい。

6.1 Chairman's free talk-議長放談

I. キャラソンの是非

声優の歌手活動とキャラソンは全く別物と考えています。

当該キャラクタの声で唄うキャラソンは声優としての高い技能が必要であると共に作品の一部であると考えからです。

II. 大橋歩夕という不思議な人。

小見川千明と並び称される人として名前を馳せていますが意外とシングル CD を出しています。どこに需要があるのでしょうか？

III. 福圓美里はもっと評価されてもいい。

彼女は演劇集団を共同で主宰したり、声優の顔出しについて疑問を呈しています。その演技に対する真摯な取り組みは、もっと評価されるべきだと思います。

IV. ゆいかおり

小倉唯、容姿と声で人気だが、正直このままでは飽きが来るのは早いと思います。一方、相方の石原夏織。声も出るし演技もこれからが楽しみです。今の売り方では勿体ないと思います。

V. ラムズは大丈夫か？

最早、恒例となった『大丈夫か？』ですが、久々に野川さくらが TV アニメに出演しました。あと暫くは大丈夫そうです。

VI. 田村ゆかり・堀江由衣のコンビ

昨今、ペアで出ることが多いと思う。『境界線上のホライゾン』、『武装神姫』にてペアで出て来た時につい、『あっ、やまなこだ』とつぶやいてしまいました。解散や休止したユニットのメンバーが数年後、同じ作品に出てきたとして今回と同じ感想が言えるだろうかと考えてしまいました。

VII. スタイルキューブが厄介です。

『StylipS』の売り込みに必死です。

でも、不良債権処理のために作品へのゴリ押しはまちで勘弁して下さい。早々に StylipS を解体し、能登有沙、松永真穂は声優としてではなく『ももクロ Z』的な位置付けでアニメ等に関わらせて方が誰もが幸せになれるかと。つか、三澤紗千香を大切に育てて欲しいです。

6.2 From member's voice

情報管理部調査課主任 北沢紘一

2012 年は劇場アニメ

2012 年は兎に角、アニメ映画をよく見た。

2011 年末から始まった「劇場版 けいおん」。まあご多分に漏れずポストカードとフィルム目的で 6 回見に行った。

5 月の GW、イベント上京した際に「ストライクウィッチーズ劇場版」を見た。

7 月、出張で上京したついでに「劇場版 図書館戦争 革命のつばさ」を見る。その 3 日後、公開されたばかりの「魔法少女リリカルなのは The MOVIE 2nd A's」を見る。これはなのはさんの色紙欲しさに計 2 回見た。

9 月には「おおかみこどもの雨と雪」を見て、10 月になると「劇場版 魔法少女まどかマギカ」の前編が始まり、11 月には後編が公開。もちろん両方共に見に行く。劇場版 魔法少女まどかマギカ後編の公開からほどなくして「エヴァンゲリオン新劇場版：Q」が公開され当然見に行く。気がつけば「劇場版 けいおん」が公開された 12 月になっていた。

さて、ここで気になるのは興行収入の件。「けいおん」や「まどマギ」の興行収入が何億円だとか騒がれているが、疑問に思われている人も多いことであろう。

この中で 1 度のみ見た観客動員数だと興行収入はおいくら程になったのだろう。

特典目的でなく純粋に心底見たくて何度も足を運んだ人も多いと思う。しかし、特典で釣っているとは思えないのは気のせいだろうか？ 巷では AKB 商法と同じではという声も聞こえてきている。

もちろん私は、よい作品だから複数回見た事に変わり無いのだが、特典商法にまんまと釣られ無かったかと問われると反論は出来ない.... （滝汗）

「劇場版 けいおん」や「劇場版 なのは A's」は、たまたま近場で上映されていたので複数回見に行くことが出来た。しかし、これが上京しなければ見られなかったら見にいなかったであろう。そう考えると数年前までは一般受けしなさそうなアニメ映画は地方での公開は諦めざるをえなかった。

しかし、今年劇場公開された作品を見ると地元県内で公開されなかった作品は「ストライクウィッチーズ劇場版」のみであった。これも一重に全国展開している大手映画館が県内に進出してきてくれたおかげである。

来年は 2 月に「劇場版 とある魔術の禁書目録」が公開される。これは地元県内での公開予定が無いので上京して見にいかねばならないが、来年も劇場へは何度か足を運ぶ事になるであろう。

編集後記

本誌をご高覧頂きありがとうございます。

3年間、島流しを受けて来ましたが久々に声優島に復帰しました。

他の島での生活も楽しかったのですが、やはり我々の思想を広めるには声優島だと痛感しました。

前回の夏コミではまさかの落選。しかも、原因は返信封筒へのジャンル記入漏れという信じられないポカミスをしていました。過去何回か落選しましたがこんな初歩的なミスは初めてでした。慣れとは恐いものと感じました。

巻頭言でも申し上げた通り TCVV は作品が主であり役者は従であると言う基本理念を持って1997年の暑い夏に設立され今年で設立15周年を迎えました。そして、コミケットにサークル参加してからは11年になります。本誌を毎回楽しみにしていると言って下さる方々が多くことを大変嬉しく思います。改めて感謝いたします。この11年の間に声優批評系は大きく成熟して来たと考えます。最早、我々の参加は不要ではないかと考えて活動の方向を見直すつもりです。

ようやく声優島に復帰して何ですがキリ良く通巻20号を持ってサークル参加は休止しようかと考えています。

さて、今年は、いつになく声優の結婚ラッシュでした。たまたま時期が重なったのかも知れませんがタブー視されてきた結婚発表の障壁が一気に崩れたとの見方も出来ます。声優のアイドル化により結婚発表するのを控えるという一種の不文律が罷り通っていたのが一気に崩れ去ったのかも知れません。ようやくアイドルという幻想が崩れて良い方向に向かって行っているのかと思います。山本麻里安、デビュー当時は現役高校生声優として銘打っていたのが今はただ懐かしいです。

あと、今年は近年稀にみる新人ラッシュと感じました。そして益々もって容姿重視の傾向です。しかし、中には有望株な人もいます。動向を注視してゆきたく思います。

紙面の都合で本号では『声優アワード Watch』を掲載していませんでしたので一言。第6回声優アワードについては、かなり改善された感があります。大沢事務所の人間も受賞しているので内紛は収まったのかと。が、時すでに遅しと言ったところ。賢明なるファンは声優アワードをとっくに見限っているのかと思います。期待しているのは新参の声優ファンくらいでしょう。

特設記事として、ちょっと前から気になっていた角川系の地産地消問題を取り上げました。当方、一度見はじめたアニメは基本的に最後まで全部観ます。が、R-15だけは駄目でした。余りの演技の下手さに3、4話ぐらいで観るのを止めました。今まで演技が下手で観るのを止めたのはありませんでした。プロダクション・エース所属声優の動向を調査することでアニメ・声優に関する新たな指標が作れないかと考えています。

毎年、様々な声優ユニットが結成されては消滅しています。スフィアに関しては声優ユニットとして現時点で断トツだと思います。ただ、最近結成当時ほどの勢いが無いように見えます。これまでスフィアは過去、陥った声優ユニットの欠点を上手く回避しながらやって来ましたが、今や過去どの声優ユニットも辿っていない未知領域を進んでいる臨床試験状態に入っていると考えます。このままの状態で終わってしまうのか、それとも新たな手法を編み出すのか、これからが正念場だと思います。

取り敢えず次回は参加予定です。抽選漏れさえしなければ...
よろしく願います。

2012年12月26日 TCVV 議長 萱沼真一

TCVV 白書 第 15 号 通巻 18 号

発行 「声優は Visual に出るな!会議」 情報管理部

組版 L^AT_EX2e (FreeBSD)

発行日

2012 年 12 月 29 日 (初版)

連絡先

「声優は Visual に出るな!会議」

代表者 萱沼真一

URI <http://www.tcvv.org/>

E-mail info@tcvv.org

Twitter <http://twitter.com/tcvv>

Copyright (C) 2012 The council of ‘Voice actors should not appear in Visual’

本文に一切変更を加えず、この著作権表示を残す限り、この文章全体のいかなる媒体における複製および配布も許可する。